2026 年 10 月

自己点検・評価結果

データサイエンス・AI 入門プログラム（2022 年度以降入学者対象）

1. 自己点検・評価体制について

本プログラムは、本学全学教務委員会等により毎年の科目の状況等を自己点検し、改善を図っていくこととする。

2. 自己点検・評価体制における意見等

2-1. 学内からの視点

〇プログラムの履修・修得状況、学修成果

前年度と比較して不合格の割合が高くなった。これは、一部学生の視聴時間が著しく低下しており、それに伴って単位未修得につながっていることが判明した。受講生に対しては初回ガイダンスにてスキップ視聴等を控えるよう周知済みであること、視聴時間の分布をみると十分に視聴している学生と、ほとんど視聴していない学生の二極化が進んでいる状況であることが確認された。

本件は、本学におけるオンデマンド授業のあり方全体に関わる課題であると認識し、適切な視聴時間については次年度以降シラバス等に明記することに加え、その他解決策を検討することとした。

〇学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

学生のアンケートによると、肯定的な意見が多くを占めた一方で不満や改善点も見られた。

［肯定的な意見］

・自分のタイミングで受講でき、期限前のメールリマインドが助かった
・繰り返し動画を確認して理解を深められた
・過去セクションの動画も継続視聴できた
・PC での自主学習により毎週学ぶ習慣がついた
・難解に思われがちなデータサイエンスや AI について身近な事例を交えたわかりやすい解説があった
・指示通り進めれば達成できる適切な難易度

［不満・改善点］

・出席扱いになっているか分からない
・リアクションペーパー提出後に完了と表記されず不安
・レポート課題の多さ
・中間課題の提示時期がテスト期間と重複したことによる負担

内容の理解度の点では、合格率が前年度比約 18％低下しており、原因は上述のとおりである。しっかり受講した学生の内容理解度は高いものの、本学で数少ないオンデマンド授業であ

るためか、特有の課題も得られた。今後はオンデマンド授業の視聴・履修姿勢への啓蒙が必要と考える。

2-2. 学外からの視点

〇教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

全学生が履修するプログラムであるため固有の特徴を得ることは難しいが、今後卒業後 5 年後の調査や学内での企業説明会への参加企業へのヒアリング等の結果を活用して評価を行う予定である。

以上